

## 2022 年度公益社団法人小さいのちのドア事業計画

### 2022 年度基本方針

当法人は、小さいのちや妊娠や出産で思い悩み追い詰められた女性を守るため、2018 年 9 月 1 日に思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談窓口「小さいのちのドア」を開設いたしました。小さいのちのドアは 24 時間 365 日休みなくいつでもアクセスできるように活動を行っています。また 2021 年 12 月 5 日には当初から必要を感じていた生活支援のためのマタニティホームを開設することができ、行き場を失っている妊産婦のための生活支援、自立支援を実施することで、相談から生活支援、自立支援までの一貫した支援を行うことができました。

また 2020 年 9 月からは若年妊婦等支援事業、2021 年 4 月からは妊娠 SOS 支援事業を兵庫県から委託を受け、活動の場も広がりを見せています。そしてかねてより準備を進めてまいりました公益化についても 2022 年 2 月 1 日付で公益認定を受けることができました。

2022 年度は、公益社団法人として社会の大きな課題でもある弱い立場にある女性や小さいのちを守るための働きを担う当法人の活動を社会の幸福のために前進させていきたいと考えております。そのためにも支援体制の強化を図りながら、社会で支える仕組みづくりのために準備を進めてまいります。

### 2022 年度事業計画

支援体制の充実・強化に向けて以下のとおり実施していく。

1. 職員・ボランティアの育成・強化
2. 生活支援体制の充実
3. 情報発信・啓発・広報活動の充実
4. 予防啓発事業の充実のため性教育部門の新設・運営

#### 1. 職員・ボランティア等の育成・強化

現在、職員は相談支援員 6 名、生活支援員 4 名、事務員 3 名の体制となり、ボランティアも 40 名ほどの方が登録・活動している。24 時間の相談に加え、同行支援、生活支援、自立支援と多岐にわたっての活動となり、職員やボランティアのさらなる充実を図っていききたい。昨年度は 4 名の職員と 10 名のボランティアを確保することができたが、事業拡大に向けてさらなる人員体制の充実を図りたい。また質の向上のために、昨年度は相談ロールプレイ研修などを定期的実施し、カウンセリング研修やトラウマインフォームドケア研修など心理・精神面でのスキルアップを重点的に行ってきたが、今年度はさらにスタッフのステップアップのための研修を充実させていきたい。

体制の充実を図ることで、よりきめ細やかな支援につながっていくため、生活支援や簡易な事務作業、広報活動を担ってもらえるボランティアの育成にも取り組みながら、

職員・ボランティアの育成・強化を図っていく。

## 2. 生活支援体制の強化

今年度より特定妊婦等支援臨時特例事業が施行され、兵庫県でも支援の必要性の高い妊産婦への臨時支援が開始される。社会的な孤立の中にいる妊産婦は一定数おり、社会的ハイリスク妊産婦の中でも特に支援の必要性の高い妊産婦への支援を強化していくしくみづくりができ始めている。しかしながら、今年度から開始されることもあり、どのような支援体制、支援内容が必要なのか手探り状態である。

小さいのちのドアでは国や県の施策に先駆けて、相談から生活支援、自立に至るまでの一貫した支援を実施していることから、小さいのちのドアの取り組みと、またそこから見えてきた課題から支援体制、支援内容をさらに強化し、妊産婦ホームステイなどの先駆的な取組なども実施しながら、社会全体で支える仕組みづくりを描きながら、国や県にも提言していきたい。

## 3. 情報発信・啓発・広報活動の充実

### 1) 支援の必要な女性に向けて

毎年、新生児遺棄のニュースが減ることがない。そうなる前に相談することができたから悲しい事件にならずにすんだケースもあるのではないかと思うと、もっと周知できるように工夫と情報発信の頻度を上げていきたい。SNS やメディアの活用をさらに充実させることで、情報に触れられる機会を増やしていく。そのためにも産婦人科などへのポスター設置の協力と、ネットカフェ難民と呼ばれる人の中からも遺棄事件などが起こっていることから、ネットカフェや24時間開いているコンビニやファミリーレストラン、ファーストフード店等に協力依頼をし、ヘルプカード等の設置の拡大を図る。

### 2) 予備軍になりかねない女の子たちに向けて

家に帰れない、夜の街を彷徨う若年女性たちがいる。彼女たちの背景には成育歴の中での傷つきや人間関係での傷つきなど、様々な背景を持っており、複雑に絡み合った課題は簡単には解決することができず、家庭に安全安心を求めることができないために、行き場を失い、街を彷徨っている。そんな中で性犯罪等に巻き込まれてしまうケースもあり、予期せぬ妊娠などに繋がりがねない若年女性たちからの相談も少なくない。社会の中で安全安心な居場所を提供することは、予期せぬ妊娠の予防とともに、関係機関等と連携しながら複雑な課題を解決していく糸口を見つけていく事が期待される。三宮や尼崎などの繁華街でのヘルプカードの配布や、Musubi cafe の開催などを定期的実施し、より相談しやすい窓口づくりに努めていく。

### 3) 支援者や社会に向けて

昨年度は、「小さいのちのドアの開けて」を出版し、3周年には漫画家ののだます

みさんと Postman をゲストにトークショーを開催した。今年度は、本を活用していただくために学校や公共施設等に寄贈していきたい。

またパーマネンシーケアの推進のため、里親や特別養子縁組などに興味関心をもってもらえるように、また支援の輪が広がるようにパンフレットやチラシの作成や、いのちのセミナーも引き続き実施するとともに、勉強会なども実施していきたい。合わせて小さいのちのドアの講演活動にも力を入れていく。

#### 4. 予防啓発事業の充実のため性教育部門の新設・運営

予期せぬ妊娠の相談件数も増える中、相談内容からも性教育の必要性を強く感じている。日本では包括的性教育が主流となってきているが、本質を語られないまま、抽象的な性教育、避妊教育や性器教育などが中心に語られることも少なくない。だが命の意味（愛すること、使命、自他肯定感など）を考えさせる本質的な性教育を広めていきたいと考えている。マナ助産院を拠点に 2000 年から性教育グループとして「いのち語り隊」が年間 150 校ほど講演活動を続けてきたが、今年度からは小さいのちのドアの性教育部門としていのち語り隊の活動を組み入れ、幼児期から大人に至るまで、性教育や小さいのちのドアについての講演活動をより精力的に行い、予防啓発に力を入れていきたい。また性やいのちについて本質を語るができる講師の養成も行っていく。

## 2022 年度事業計画

事業名	事業内容
会議の開催予定	
総会	1 回（6 月頃）
理事会	4 回
運営委員会	月 1 回
ケースカンファレンス	週 1 回
小さいのちのドア支援事業	
小さいのちのドア	思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談を継続する。24 時間 365 日電話や来所、メール、LINE などあらゆる方法でいつでも相談することが出来る。2022 年度も引き続き兵庫県・神戸市の妊娠 SOS として相談事業を実施していく。
同行支援	ドアに相談に来られた方の病院受診や行政窓口、関連団体への同行支援を行い、必要な支援につなげていく。妊娠から出産、産後に至るまで女性と小さいのちが前向きに歩める一歩を踏み出せるまでサポートを行う。
妊娠出産支援	妊婦健診や出産の支援を実施し、産前産後ケア事業などが必要な妊婦については、助産院と連携していく。 費用面での支援が必要な場合は、小さいのちのドアから支援を行う。
来所支援	小さいのちのドアに来所するハードルを少しでも下げられるように、必要な方には来所時の交通費支援を行う。
生活支援	マタニティホーム Musubi を運営し、行き場を失い、頼ることのできない妊産婦の生活支援を行い、産前産後の期間、安全で安心できる温かい場の提供を目指す。 また今年度は自立支援計画を策定し、マタニティホームからのステップハウスなどを設けるなど、自立に向けた個々のステップを踏みながら、支援を実施していく。
妊産婦ホームステイ	関わる妊産婦の多くは家族との関係不和、機能不全の中で帰る場所のない方が多い傾向があるため、マタニティホームが一つの帰る場所になればと活動してきたが、社会の中に第二の我が家が作られ、社会全体で支える仕組みづくりができたらと思い、妊産婦ホームステイ制度を創設し、いつでも帰れる我が家を社会の中に創っていく。 妊娠中にホストファミリーとマッチングさせ、交流を図

	<p>り、産後マタニティホームからホームステイ先として利用もしくはステップハウス等に移った際に、週末ホームステイを利用する。期間は産後1年までとする。</p> <p>妊産婦ホームステイ創設にあたり、ホストファミリーの研修体制を整え、募集していく。</p>
自立支援	<p>小さいのちのドアにつながった妊産婦が、幸せにこれから生きていくためにも、自立できる環境づくりを支援していく必要がある。就学や就労支援を、シングルマザーを応援している企業や団体と連携しながら、自立を目指していく。</p>
支援の必要性の高い妊産婦への支援に関する研究	<p>小さいのちのドアのような活動の必要性を社会に発信していくため、根拠ある情報提供、研究発表を行っていく。</p>
里親・縁組相談支援	<p>里親制度、特別養子縁組への理解と支援の輪が広がるように、啓発を行いつつ、興味のある方や希望者を中心に、勉強会を実施。必要時、特別養子縁組団体や里親支援団体につないでいく。</p>
スタッフ研修会	<p>小さいのちのドアのスタッフや希望者に向けて、定期的なステップアップ研修や養成研修を実施し、質の高いケアが実施ができるようにスキルアップを目指していく。</p>
ボランティア研修	<p>生活支援の中で、ボランティアとして活動に参加希望者向けに研修を実施し、ボランティア登録を行う。</p>
セミナー	<p>小さいのちのドアの活動や緊急下の妊婦支援などに興味関心のある方を対象に、いのちのセミナーを定期的の実施していく。</p>
積極的周知・広報活動	<p>支援の必要な女性が支援につながるができるように、SNSやメディアなど積極的に活用していく。</p> <p>また産婦人科などへのポスター設置の協力とヘルプカードの設置を24時間開いている場所やネットカフェ、ファミリーレストラン等設置できる場所を増やしていく。</p>
アウトリーチ	<p>月に1回程度、三宮や尼崎など繁華街を中心に、ボランティアを募集してチラシやヘルプカードの配布、定期的に出張相談所としてMusubi cafeを開催し、予防啓発、女の子たちの居場所づくり、ハイリスク群の早期発見・早期介入を目指す。</p>
支援の輪の拡大に向けての広報活動	<p>小さいのちのドアの活動や日本の現状についてのパンフレットやチラシを作成し、分かりやすく紹介していく。</p>

	出版本を活用し、学校や図書館等へ寄贈し、普及啓発を図る。
性教育部門の創設 いのち語り隊の活動の充実	いのち語り隊の活動を小さないのちのドアの性教育部門として組み入れ、本質を語る性教育の講演活動を充実させ、予防啓発活動を推進していく。合わせて語ることできる講師養成も実施し、予防啓発活動の拡大を図る。